

「お蔭さまです」

特別養護老人ホーム熱海伊豆海の郷
施設長 遠藤 美和子



熱海伊豆海の郷のスタートは、平成 18 年の春、満開の桜の中、旧梅園荘（熱海市が運営していた養護老人ホーム）に入所していた方々をお迎えした所から始まりました。

初めての夜勤開始の日、お互いに慣れない環境の中で、「無事に朝を迎えられますように・・・。」と祈り続けました。

その祈りが通じたのか、何事もなく迎えた翌日の朝陽は、私の人生の中で忘れられない瞬間となりました。

観光地として有名なこの地で、大規模な複合型の福祉施設を開設することは、とても大きなプレッシャーでもありました。

人々が現実から離れ、癒しを求めて訪れる地で、「古い」をマイナスの印象にしてはいけないという思いから、「世話をする」「世話をされる」関係ではなく、『共に暮らしを作り上げるパートナー』となれるよう心がけてまいりました。



また、ご家族におかれましても、親御様の老いによる変化を目のあたりにする事は、とても辛いものです。目の前に突きつけられる現実には、判断すら迷う事ばかり……、そんな時にそばに寄り添い、気軽に相談できる存在になりたいと思い努力してまいりました。

お蔭さまで現在では、多くの方々に熱海伊豆海の郷に足を運んでいただき、幅広い年齢層の方々と交流させていただいております。地域の方々には、様々な場面でお力を貸していただいたり、温かなお言葉をかけていただいたりと、心から感謝しております。

「老い」をマイナスではなく、プラスの印象に変えるのは、私達職員全ての姿勢にかかっているといっても過言ではありません。一対一での対人援助から、私達は多くの事を学び、時に感動を得て、人として成長させていただいております。

まだまだ未熟な面もあり、ご指摘をいただいている私達ではありますが、地域の皆様に寄り添い、今後も皆様から必要とされる存在であり続けたいと思っております。

